

すべての「わたし」を
創造的に生きよう。

WE-*Nagano* Global Conference

報告書 2024

すべての「わたし」を
創造的に生きよう。

「わたし」を生きよう。

社会からの期待や理想に、自分を当てはめようとしたり、
誰かの想いを優先して、自分のことを後回しにしまったり。

自分の中の私とつながり、違いを恐れず、自分の可能性を拓くこと。
私とつながる地域、ビジネス、グローバル社会について考えること。
地球や、人間以外の生き物たちの声にも、耳を傾けてみることに。

「わたし」たちの、より良い未来を創造しよう。

いつもと違う一歩を踏み出す時は、不安や恐怖があるかもしれない。
より良い社会や未来をつくっていくための、新たな一歩を踏み出す勇気や希望。
そして、不安や恐怖を超えていける仲間を得ること。

より良い社会に向けて、すべての「わたし」が創造的に生きることが
WE-Nagano は、応援します。



Women Entrepreneurs Nagano (WE-Nagano)

WE-Nagano (Women Entrepreneurs Nagano) は、
すべての人が「わたし」を創造的に生きることがを応援する、長野県立大学発のプロジェクトです。
すべての人が起業家精神を持ち、一人一人がイノベーションを生み出す「わたし」として、地域に根ざしながら、
グローバルな視座と女性的な視点から、より良い社会や未来をつくっていくために、議論や交流を行っていきます。

名称に“女性 (Women)”を入れているのは、プロジェクトとして、これまでの社会システムとは
異なる視点という意味での「女性性」や「女性的リーダーシップ」の必要性や、
可能性を拓ききれていない対象として女性が多いということから女性への期待を込めています。

WE-Nagano Global Conference 2024. 7. 19 fri - 21 sun

at 長野市芸術館 アクトスペース／長野県立大学 三輪キャンパス

女性的な視点から創造する「良い企業」「良い地域」

すべての人が起業家精神を持ち、一人一人がイノベーションを生み出す「わたし」として、グローバルな視座と女性的な視点から地域について考え、国籍・性別・世代・分野などを超えて、共に未来をつくっていく3日間のグローバル・カンフェレンスを開催しました。1・2日目は、仏教・アート・ビジネス・アカデミアの多彩な分野のスピーカーによるセッション。3日目は、2日間のセッションの中で生まれてきた気持ちをアートを通して表現し、未来に繋げていくワークショップが実施されました。

Day1

10:00	Opening	13:30	Inspiration Talk 1 グローバルリーダーたちと考える リーダーのあり方と地域イノベーションの未来 Helianti Hilman、丸山将一、Kayla Afrin Fariza Abidova、石川洋人
10:20	Opening Session 長野県の暮らしから考える「女性性」と「イノベーション」 鷹司誓榮、笠原美智子、井上英之 金田一真澄、大室悦賀、渡邊さやか		
13:00	Keynote Talk 長野県を変える「アントレプレナーシップ」 安藤国威	15:00	Keynote Session グローバルと女性的視点から創造する 長野県の地域イノベーション 阿部守一、平田はる香、鳥居希、槌屋詩野、渡邊さやか

Day2

9:30	Day2 Opening	分科会① by 株式会社 SUNDRED 私らしく関われるまちづくり。長野をラボに未来を考えよう！ 第1部：「山間移動と街のにぎわい」／第2部：「ありたいくらし」
10:30	Inspiration Talk 2 Z世代が考える「良い企業」「良い地域」 来海 潤一郎、古川 瑞樹、関ひなた、手塚琉盛、渡辺珠子	分科会② by Biotope 人生とキャリアの選択、みんなはどうしてる？ 第1部：前編／第2部：後編
13:00	Breakout Sessions 分科会①～④ 第1部 13:00 - 14:00／第2部 14:30 - 15:30	分科会③ by 信州ウィメンズヘルスケア協会 第1部：10代からのヘルスケア ～月経との上手な付き合い方！～ 第2部：働く女性のメンタルヘルス戦略！～カウンセリングの現場から～
15:45	Closing Session	分科会④ by 合同会社キキ 「性」を自分らしく考察・実践する 表現ワークショップ 第1部：前編／第2部：後編

* WE-Market: 卒業生や在校生、県内の女性事業者によるブースが計17店舗出店。

* WE-Place: 未就学児～小学生向けのプログラムを実施。

Day3

9:30 ～ 16:30	Art Earth Dialogue 「わたし」から始まるイノベーション 中村峻介、岡田味佳
--------------	--

Day1: 2024.7.19 / 10:20~11:35 / 長野市芸術館アクトスペース

Opening Session

長野県の暮らしから考える「女性性」と「イノベーション」



登壇者（写真右から）：
長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科
教授 **大室 悦賀氏**
INNO-Lab International 共同代表 **井上 英之氏**
長野県立美術館館長 **笠原 美智子氏**
善光寺大本願副住職 **鷹司 誓榮氏**
長野県立大学学長 **金田一 真澄氏**

モデレーター：
長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科
講師 **渡邊 さやか氏**

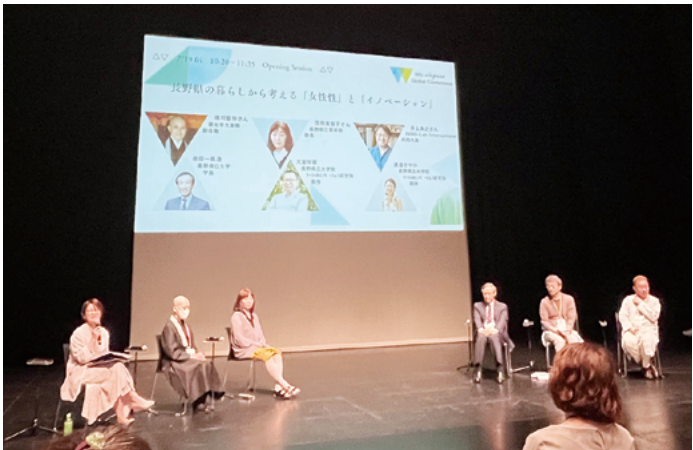


「Opening Session」では、モデレーターに渡邊さやか氏を迎え、仏教・アート・言語学・ソーシャルイノベーションなど異なるバックグラウンドを持つ5人の登壇者が「女性性」と「イノベーション」について深く議論した。

鷹司氏は、善光寺が女人禁制の時代から性別を問わずすべての人を受け入れてきた背景と歴史を通して、長野の土地が持つ寛容性について語った。笠原氏は、長野で生まれ育ちながらジェンダー差別を感じていた日々と、それに対して戦ってきた自身のキャリアを踏まえ、アートの持つ批判性や問題提起が社会に与える影響について訴えた。

社会文化的（ジェンダー）な女性性を元に議論が進められる中、金田一氏は、言語学の視点から女性性と男性性の違いを読み解き、女性的コミュニケーションがコミュニティにおいて果たす役割について詳述した。さらに、井上氏はソーシャルイノベーションの視点から、コレクティブインパクトについて言及した。コレクティブインパクトを起こすには、対話によって他者と知覚の違いを乗り越えて相互理解を深めていく女性性と、理論を用いて正当性を証明していく男性性の双方が重要であると述べた。

最後に、ソーシャルイノベーションの研究者である大室氏は、男性的（左脳の）に物事を捉えようと、自身が持つ基底に捉われてしまうと述べ、女性的（右脳の）に物事を感覚で捉える力によって既存の枠組みを外した上で、男性的な論理的思考力で再構築していく必要があると語った。



“アメリカの映画で変な日本人が出てくる。それを見て嫌な気持ちになる。これと同じことが、「男性によって基底された女性らしさ」「白人によって基底された黒人らしさ」「いわゆる健常者によって基底された障がい者」という立場で起こっています。

他者が自分を基底する事は、想像を絶する辛さです。このような他者表象と呼ばれる問題を乗り越える方法は、**当事者の表現を取り戻すほかにありません。**私はこれからも、この他者表象の問題に対しアートの力で提起していきたいと思います。”

- 笠原 美智子氏
(長野県立美術館館長)



“現在、社会起業やNPOの世界では、「この施策にいくら投資すれば何人が助かる」といった具体的なインパクトを約束する、「セオリーオブチェンジ」と言われる手法に基づきプレゼンが行われるなど、主に男性的な資金調達手法が取られています。

しかし、これらのアプローチは対処療法的で、根本的な問題解決には至っていません。たとえば、**ホームレスの方に食べ物を提供するだけでは不十分で、なぜその人がホームレスになったのかという根本原因に目を向ける必要があります。**広い視点で問題を捉え、時間をかけて根本的な解決を図ることが重要です。”

- 井上 英之氏
(INNO-Lab International 共同代表)



当日の司会は、日本語・英語で行われた。
なお英語の司会については、長野県立大学の留学生が担当した。

Voices

参加者の声

長野県の歴史が変わる瞬間を見たような気がした。

男性によってかけられた言葉の呪いを、男性や女性ではなく、「わたし」という主体性でかけ直す時代に来ている。そのためには、すべての人が「わたし」を見つけなければならない。

意識が言語や行動を変えてゆく、という感覚がよく分かった気がします。正しく意識するためには、知識も必要ですが、それを基底にしてしまうと、逆に立場を作ってしまう気もします。境界を行ったり来たりできるようになれるものでしょうか。

参加してよかったと強く思いました。魅力的なNAGANOになる予感がしました。

Day1: 2024.7.19 / 13:30~14:45 / 長野市芸術館アクトスペース

Inspiration Talk 1

グローバルリーダーたちと考える
リーダーのあり方と地域イノベーションの未来



登壇者（写真上右から）：
Javara Indonesia 創業者 Helianti Hilman 氏
エムケー精工株式会社 代表取締役社長 丸山 将一氏
Trusted 株式会社 代表取締役 Fariza Abidova 氏
こしかけカフェ 創業者・共同代表 Kayla Afrin 氏

モデレーター：
一般社団法人 Arc & Beyond 代表理事 石川 洋人氏



午後のセッションの前には、安藤理事長（当時）から「長野県を変える『アントレプレナーシップ』」をテーマにした Keynote Talk があった。

「Inspiration talk」では、モデレーターに石川氏を迎え、4 人のグローバルリーダーが、長野県の課題や、海外のエコシステムとの比較、アントレプレナーシップの重要性について語った。

長野県は全国的に見て女性の転出率が高いことや、女性の有業率が高いにも関わらず管理職に占める割合が非常に低いなど、女性に対する寛容性の低さが指摘される中、Fariza 氏は、女性が自らのキャリアを築くために起業を選択する道がもっと広がるべきだと強調した。また彼女は、日本にも素晴らしいアイデアやアクションはあるとしつつも、それらのリソースが分散してしまっていることでインパクトが小さくなってしまっていると述べた。スイスのエコシステムを例に挙げ、国がリーダーシップを発揮し、地域ごとの強みを分析しながら戦略的に大学や企業を誘致することで、イノベーションを生む環境を整えていく必要があると語った。

それに対し、Kayla 氏と Helianti 氏もまた、日本における官僚主義が変革の妨げとなっていると指摘した。政府と民間企業、そして市民が協力し、コミュニケーションを強化しながら柔軟な対応を取ることが必要だと述べ、変化への対応力がビジネス成功の鍵であると語った。また、Helianti 氏は、自国での挑戦がうまくいかない場合でも、他の地域で新たな方法を見つけるといったアントレプレナーシップの重要性を強調し、議論が締めくくられた。

Voices

参加者の声

すべての人々が活躍できる社会に！

あえて「女性だから」という方は 1 人もいっしやなかった。自分がやりたい姿をイメージして、そのために自分が活動することを始めたいと思いました！県立大学で学んで長野で勤めていますが、またこれから色々チャレンジしていきたいと思いました。



“私は日本語があまり話せない上に、女性であるため、長野でビジネスを立ち上げるにあたって多くの壁にぶつかりました。しかし、それでも私が日本に留まり続けるのは、私が、私の夫、友人、コミュニティを愛しているからです。

「どんなに大きな変革も、地域の一人ひとりの声を大切にし、コミュニティ全体が団結し、小さな変化を起こすことから始まる」私はこの信念のもと、3 年前から愛する仲間と共に「森のこしかけフェス」を始めました。楽しく会話し、踊り、歌うことは、日々の疲れを癒し、小さな変化を起こすためのエネルギーを人々にもたらすのです。”

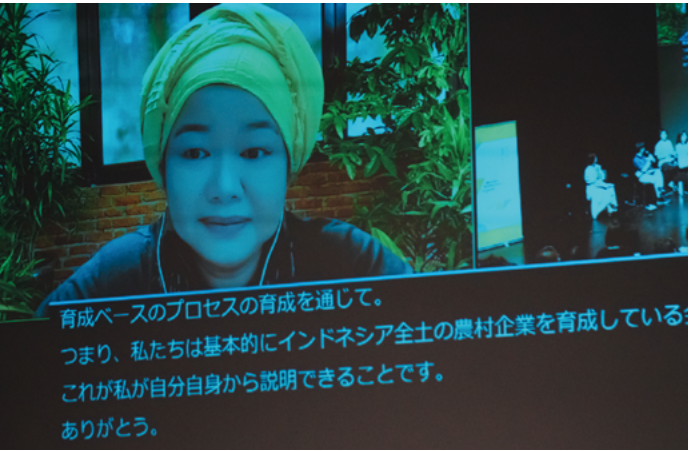
- Kayla Afrin 氏
（こしかけカフェ 創業者・共同代表）



“私は「女性から選ばれる長野県を目指すリーダーの会」共同発起人として、今後は経営者層の意識改革と共に企業の理念やブランディング全体を見直す必要があると考えています。近年の調査では、若者は権力やお金だけでなく、社会に与えるインパクトを重視して就職活動を行っていることが明らかになりました。

しかし、現在の経営者層の中には、これを単なる理想論やきれいごとだと捉えてしまう人も多くいます。このギャップを早く埋めなければ若者の流出は避けられず、地域の衰退が進んでしまいます。私は、長野県の経営者層の意識改革が早急に必要だと感じています。”

- 丸山 将一氏
（エムケー精工株式会社 代表取締役社長）



Day1: 2024.7.19 / 15:00~16:15 / 長野市芸術館アクトスペース

Keynote Session
グローバルと女性的視点から創造する
長野県の地域イノベーション



登壇者（写真右から）：
株式会社 Hub Tokyo 取締役・共同創業者 榎屋 詩野氏
株式会社 Value Books 代表取締役 鳥居 希氏
株式会社わざわざ 代表取締役 平田 はる香氏
長野県知事 阿部 守一氏

モデレーター：
長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科
講師 渡邊 さやか氏

「Keynote Session」では、長野県知事と3人の女性起業家が地域イノベーションにおける多様性の受容やリスクの許容、教育のあり方について語った。

榎屋氏は、地域に新たな視点を持ってくる重要性について、長野県の地域イノベーション人材における移住者の割合の高さを取り上げ、コミュニティにおいて創業文化と移住者の定住は相互作用すると説明した。

それに対し、鳥居氏はグローバル視点でアクションを起こしていくことが地域イノベーションに繋がると述べた。社会性と経済性を両立する企業団体 B Corp（認証制度・ムーブメント）を紹介し、機会の公平性を重視することで、多様な働き方を尊重する企業文化を築くことの重要性を強調した。

一方で平田氏は、地域ベンチャーの立場から、人材の確保に苦労している現状を話し、スキルとアントレプレナーシップの両方をもった人材を必要としていると述べた。最後に、阿部氏はセッションを振り返りながら、行政がやるべきことは人材の確保と教育であると再認識したと述べ、教育を通じたアントレプレナーシップの育成により人を惹きつける魅力的な地域づくりにつなげていきたいと語った。



“これからの時代、グローバルを意識して day0 から長野と海外を繋いでビジネスをする感覚を持てる事が重要です。日本の場合「まず長野で」「まず日本で」など、自分たちで勝手にキャップをかぶって視野を狭めてしまっている人がほとんどです。

そのキャップを外すためにはリスクをとる事に対する社会の寛容性をあげていく必要があります。変化を起こすことに対してのリスクを取ることを、幼少期からのから教育に取り入れ、広い視野で世界で活躍できる人材を育てていく施策が大切です。”

- 榎屋 詩野氏
(株式会社 Hub Tokyo 取締役・共同創業者)



“私は、行政がやるべきことは、人の確保、人材育成だと思っています。なぜなら多くの企業が人材確保で苦戦しており、それが成長を阻害する要因になりうるからです。

これからの時代には、アントレプレナーシップが重要になってきます。アントレプレナーシップとは自分でありたい社会を自分たちの力で作っていくことだと思います。教育を通じて県民の皆さんがアントレプレナーシップ的な視点を持てるようになればそのことが色々な人を惹きつける魅力ある長野県づくりにつながっていくと考えます。”

- 阿部 守一氏（長野県知事）

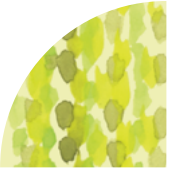


Voices
参加者の声

心に残った言葉・共感する言葉
「起業の parts として政治参加（政治家）を入れる。Risk Taker になる。」

7/19 のプログラムすべてを聴講しました。もっと多くの人に聴いて欲しい内容でした。明日からの日常生活に生かせる言葉ばかりでした。様々な立場の Speaker の方々の発言をぎゅっとまとめて聴ける貴重な1日でした。今後も参加したいです。関係者の皆様、企画から運営まで大変お疲れ様でした。

素晴らしい時間となりました。女性であっても、男性であっても、自分らしく輝ける社会のはじまりを感じました。



Day2: 2024.7.20 / 10:30~11:45 / 長野県立大学三輪キャンパス

Inspiration Talk2
Z世代が考える「良い地域」「良い企業」



登壇者（写真右から）：
私立新留小学校設立準備財団 共同代表 古川 瑞樹氏
松本大学 総合経営学部 手塚 琉盛氏
株式会社ユーグレナ 未来世代アドバイザーボードメンバー
来海 潤一郎氏
長野県立大学 グローバルマネジメント学部 関 ひなた氏

モデレーター：
株式会社 日本総合研究所 創発戦略センター
シニアスペシャリスト 渡辺 珠子氏

「Inspiratin Talk2」では、モデレーターに渡辺氏を迎え、Z世代が考える「良い地域・良い企業」について若者たちが議論を交わした。

彼らの共通認識として、地域や企業は単なる場所や雇用の場ではなく、学びや成長の場であると語られる中で、関氏は地域のしがらみが個人の挑戦を妨げることも多いと指摘し、地域に根ざしながらも「わたし」を主語に地域を開き、自ら新しい学びの機会をつくることが重要だと話した。

それに対して手塚氏は、そのような環境をつくるためには、若者と企業をつなぎ、共創を促進するコーディネーターの存在が必要だと述べた。また、来海氏は自身が高校生のときにユーグレナの初代 Future サミットメンバーとして活動していた経験から、企業と学生が共に活動する上で、お互いに対する解像度を高める必要があるとしつつも、解像度が高まることで学生が企業と同じ視点に囚われ学生としての強みを発揮できなくなるもののリスクを指摘した。

最後に、現在地域に開いた学び舎として「ふつうの小学校」の立ち上げに関わる古川氏がセッションを振り返り、教育業界の問題がこれまで解決されてこなかったのは教育業界の殻の中だけで解決しようとしてたからだと指摘し、学びを通じて地域と企業が共に成長し、持続可能な未来を築く場をつくり上げていきたいと語った。



Voices

参加者の声

世界観が広がるイベントだった。社会を構成するのは一人ひとり。自分も社会の中でムーブメントを起こせる1人になれるといいなと思いました。

三輪キャンパスのほんとにそばに住んでいます。近くにこんな刺激的で学びの多い場があるなんて改めてすごい!! と思いました。これからも地域に開いた場を提供して欲しいです。

私を生きる。まだ見ぬ誰かに会うために。この社会や世界を美しさへ向かわす「力」となるために。感動を生きよう。それは誰かの美しい記憶となる。



“私が思う良い地域・良い社会は「正解を求めない社会」です。近年、情報通信技術の急速な発達に伴い、大抵のことは調べればすぐに分かる様になってきました。より多くの知見に触れられるようになった反面、若い世代は知らないことや不確実なものに恐怖心を抱きやすくなり、自発性を失ってしまっているように感じています。

正解を追い求めなくなる気持ちはわかりますが、そればかりでは「わたし」という主語が消え、社会の潮流やトレンドに流されて自分の軸を持つことが難しくなります。そうならないために、私は、「少しでもやりたい事や解決したい問題があれば、思い切って一歩踏み出してみて」と伝えていきたいと思っています。”

- 来海 潤一郎氏
(株式会社ユーグレナ未来世代
アドバイザーボードメンバー)



“社会をつくることや社会問題の解決は、自分たちの世代だけでできる事ではなく、世代や性別、人種、価値観を超え、多くの人が手を取りあわなければ実現できないものだと思います。近年「老害」という言葉がよく取り上げられますが、それは上の世代の人が自分たちのことを理解してくれるのが当たり前という前提のもと湧き出てくる怒りであったりトラブルなのだと思います。

しかし、世代が違えば価値観が違うのも当たり前です。
社会課題を解決し、豊かな未来をつくるために、今私たちがしなければならない事は、お互いを理解しようと歩み寄り、対話することではないでしょうか。”

- 関 ひなた氏
(長野県立大学 グローバルマネジメント学部)



2 日目は、WE-Market として長野県立大学の在校生・卒業生や県内女性事業者による計 17 のブース出店があった。

Day2: 2024.7.20 / 13:00~15:30 / 長野県立大学三輪キャンパス

Breakout Session

1 SUNDRED 株式会社



ファシリテーター：
SUNDRED 株式会社 CIEO・チーフエバンジェリスト **上村 遥子氏**
SUNDRED 株式会社 EVP/CVO/CKO **深田 昌則氏**
EKKYO.HUB 代表 **田中 律羽氏**

第 1 部：
「**私らしく 関われるまちづくり。長野をラボに未来を考えよう！
～山間移動と街のにぎわい～**」

「100 個の新産業を共創」を目指す「新産業のインキュベーター / アクセラレーター」として活動を行っている SUNDRED。今回は「山間移動と街のにぎわい」に焦点を当て、ありたい未来から逆算してネクストアクションを設定するバックキャストイングという手法を用いて、産官学の様々なステークホルダー約 20 名を集めた対話を実施した。

第 2 部：
「**私らしく 関われるまちづくり。長野をラボに未来を考えよう！
～ありたいくらいし～**」

第 2 部は「日本の鋭意のある若者が越境し共創アウトプットを出し続ける場を創り出す」というステートメントの下活動している EKKYO.HUB と SUNDRED のコラボレーションにより開催された。「わたしとしてありたい未来」と「わたしが所属している組織としてありたい未来」という 2 軸のバックキャストイングを行い、それらを多様なステークホルダーと共に対話するワークショップを行い、組織の壁を越えた共創の場を創り出した。

2 Biotope



登壇者・モデレーター：
八十二銀行 人事部 ダイバーシティ推進室 室長 **浦原 晴美氏**
長野県 企画振興部 DX 推進課 / かえるプロジェクト **村田 ひなの氏**
ククリテ 代表取締役社長 **石黒 蘭子氏**
ブランド戦略コンサルタント **佐野 由理氏**
ランサーズ 地方創生マネージャー **篠原 智美氏**
株式会社共立プランニング 営業企画部兼経営企画部 **岡田 江里子氏**

第 1 部：
「**人生とキャリアの選択、みんなはどうしてる？ 前編**」

「Life-Envision - 人生とキャリアの選択、みんなはどうしてる？」をテーマに、これからのキャリアをどう選択していくか、不安や希望、自己への期待を言語化してみるセッションを開催した。第 1 部では、「プロティアンキャリア」理論を参考に「アイデンティティ」と「アダプタビリティ」という 2 つの要素についてゲストがクロストーク。その価値観や事例に共感しながら、参加者同士が「自分だったら…」を話し合った。

第 2 部：
「**人生とキャリアの選択、みんなはどうしてる？ 後編**」

第 2 部では、「ブランドハプンスタンス（意図された偶発性）」理論と、その 5 つのスキル「好奇心」「持続性」「柔軟性」「楽観性」「冒険心」を紹介。「偶然の出来事を主体的に活用することで、様々なチャンスをつくるには」、「日常の中でどんなアクションを起こすか」というアイデアを交換した。

3 信州ウィメンズヘルスケア協会



登壇者：
産婦人科医師 **山本 かおり氏**
小児科医師 **増田 英子氏**
公認心理師・臨床心理士・フリーアナウンサー **菰田 敦子氏**

モデレーター：
信州ウィメンズヘルスケア協会代表理事 **中村 恵美子氏**

第 1 部：
「**10 代からのヘルスケア～月経との上手な付き合い方！～**」

2024 年に新たに発足した「信州ウィメンズヘルスケア協会」は、子宮頸がん予防啓発を主な活動としながら、「女性のウェルビーイング」を目指している。第 1 部では、「10 代からのヘルスケア」をテーマに、産婦人科の山本氏が月経との上手な付き合い方について語られた。また、小児科の増田氏からは、10 代のうちから自身の健康に目を向けることの重要性について解説がなされた。

第 2 部：
「**働く女性のメンタルヘルス戦略！～カウンセリングの現場から～**」

第 2 部は、「働く女性のメンタルヘルス戦略」をテーマにセッションが開催された。公認心理士の菰田氏は、自身を心理・環境・身体の見点から評価し、「思考と行動の流れ」を分析することの重要性について語った。さらに、小児科の増田氏は、保護者のメンタルヘルスが子どもに与える影響について、育児期の女性に向けた重要なポイントを説いた。また、セッション中は Q&A と投票のプラットフォーム「slido」が活用され、参加者と登壇者とのインタラクティブな対話が活発に行われた。

4 合同会社キキ



ファシリテーター：
合同会社キキ 共同創業者 **川向 思季氏**

「**“性”を自分らしく考察・実践する 表現ワークショップ**」

キキのワークショップでは、演劇的手法を用い、一人一人が“実演”することを通して自分らしい「性」のあり方を探究した。参加者は、普段担っている役割を手放し、特定の職業や性別についてセリフや身体表現を用いて演じることを通して、参加者自身が無意識に持っている「性」のイメージや、社会的につくられた「性」のイメージを振り返った。最後には、「性別を選ぶことができる世界」を舞台に即興劇を行った。

即興劇では、参加者自身が「性」についての普段の考えや、想像しうる物語を演じた。時には、「性」を巡る鋭いセリフが生まれたり、素朴な問いを掛け合うような場面も見られた。演劇的手法を通じ、その場の状況や相手を受け止め、次に繋げていく、「性」の対話が生まれたと感じられるワークショップとなった。

Voices 参加者の声

とても気持ちの良いカンファレンスでした。
準備から当日の運営まで大変お疲れさまでした。
このような機会をいただき心より感謝いたします。

幸せな事柄もストレスになる。不安を自分の中で止める練習。日々、自分と向き合うことが大切だと知りました。そんな時間を作る練習も必要！



Day3: 2024.7.21 / 9:30~16:30 / 長野県立大学三輪キャンパス

Art Earth Dialogue
「私」から始まるイノベーション

Day3 は、アーティストの中村峻介氏、デザイナーの岡田味佳氏によるアートワークを実施した。参加者同士が交流や対話をしながら、Day1- Day2を通じて自分の中に生まれた想いを自由に表現した。



“すべての「わたし」を創造的に生きよう。”
わたしは、「わたし」を生きているのだろうか？
そんなことに想いを馳せながら、ありのままの「わたし」を色と形で表現していく。創造的に生きてきた「わたし」の物語を分かち合っていく。そこには、喜びも痛みも含んだ、あらゆる「わたし」がきっと存在している。その奥には、どんな願いがあったのだろうか？
どんなことを大切に、生きてきたのだろうか？

場集った人々から、言葉とアートを通したギフトをもらいながら、「わたし」に出会い直していく。すべての「わたし」を生きることは、決して、人生を通して実現したいことをすべてやり遂げることだけではない。時に、それを手放す勇気を持つことでもあるのではないだろうか。努力したけれど叶わなかったことも、違う道を選んだことも、すべての「わたし」。

そんな「わたし」を一人ひとりが大切に生きられる世界になってほしい。そして、すべての「わたし」が「わたしたち」になったとき、イノベーションが生まれるのであろう。「わたしたち」であることのコレクティブインパクト。まさに、その力を体感させてもらえた時空だった。

- 中村 峻介氏 (アーティスト) / 岡田 味佳氏 (デザイナー)



Voices

参加者・事務局の声



この3日間、常に“わたし”という言葉がそばにある感覚があった。「すべてのわたしを創造的に」という言葉は僕にとっても大切な言葉であった。初日の登壇セッションでは、長野県や社会、そして越境した分野からのイノベーションと女性的な視点と思考の大切さを学び、凝り固まっていたような考えも別の角度から見きかけとなった。

そして、2日目は僕と同世代ながら各地域や方面で“わたし”を発揮し続けている人たちの言葉と熱量を浴びてさらに触発され、最終日のアートワークで自分の今の感覚を少しずつ可視化していくことができたと感じている。最後に自分が描いた絵は、まるで流れの中に自分がいて、常に変化していく様子が見えたような感覚があった。うねりの中に生きているからこそ、わたしの存在を常に発揮していけるよう努力していきたい。

- 保坂海さん (長野県立大学 グローバルマネジメント学部3年)

アートワークの片付けをしながら、「走り抜けたな」と思った。7/21をもって第1回のWE-Nagano Global Conferenceはカタがついたような感覚すらあった。しかしカンファレンスが終わって、参加者や関係者の1人ひとりに残った種や、3日間のインパクトがいろいろなところからわたしに戻って来るような出来事が続いた。

わたしは、参加者のみなさんや地域にあらわれたインパクトから、WE-Naganoを捉え直し、まさに“わたしたち”の感覚を得たように思う。長野にとってのきっかけをつくる1人だったと思うことができた。来年、再来年はどんな“わたしたち”にであえるのか、わたしは、創造的なわたしをどう体现するのか、楽しみである。

- 勝山由莉愛さん (長野県立大学大学院 ソーシャルイノベーション研究科1年)

一人一人が手のひらサイズの小さなキャンパスに「わたし」を描く。その私の種を中心に今度は体育館の半面ほどの大きなキャンパス (社会) に自分の世界を広げていく。異なる世界が次第に近づき、互いの美意識を重ね合わせ、溶け合ったり、ちょうどいい距離感を見つけていく。最終的に書き上げられた1枚の絵 (社会) は、多様な世界が広がりつつも調和がもたらされていた。

「すべてのわたしを創造的に生きる」というステートメントのもと開催された今回のイベントだったが、正真正日を迎えるまでは「わたしを開いていくことで他者を傷つけてしまう」事もあるのではないかという疑問もあった。しかし3日間のイベントを通して「他者と美意識を重ね合わせの互いの間に美しい風景を描こうという気持ちさえあればわたしを開きつつも他者と調和した社会を築いていける」という確信を得ることができた。

- 内田大晴さん (長野県立大学 グローバルマネジメント学部3年)

Output

参加者
261人

5 セッション
+ **4** 分科会 + **6** プログラム

メディア取材
10 +

Thank You

多くの方々に応援・支援を頂いて、本プログラムを実現できています。心から御礼申し上げます。

主催



長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO

後援

長野県 長野県教育委員会 長野県市長会 長野県町村会

プログラムパートナー



信州ウイメンズヘルスケア協会



メディアパートナー

日本経済新聞社長野支局

協賛

スペシャル・スポンサー

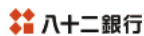


ゴールド・スポンサー



シルバー・スポンサー

レギュラー・スポンサー



エムケー精工株式会社 KOA 株式会社 株式会社ラポールヘア・グループ

Join us,
WE-Nagano!



共に WE-Nagano を創ってくださる方を募集しております。

WE-Nagano は、地域に根ざしながら、グローバルな視点と女性的な視点から、より良い社会や未来をつくっていくことを目指しています。プログラムスポンサーや実行委員としてご協力くださる企業・個人を募集しております。ご興味を持ってくださる方は、お気軽にご連絡下さい。

Contact: we-nagano@u-nagano.ac.jp
<https://we-nagano.com>



WE-Nagano グローバルカンファレンス 2024 報告書

発行日 2024 年 11 月 30 日

テキスト 内田 大晴 長野県立大学グローバルマネジメント学部 2 年

編集 風音

デザイン 岡田 味佳

写真 Andrei Ortiz Luis

WE-Nagano 事務局

渡邊 さやか 長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 講師

勝山 由莉愛 長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 1 年

保坂 海 長野県立大学グローバルマネジメント学部 3 年

塩入 美雪 長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科修了・株式会社 SALT 代表

長野県立大学・信州大学 学生ボランティア (当日運営サポート)

※本カンファレンスは 2023 年度及び 2024 年度 公立大学法人長野県立大学 公募型理事長裁量経費事業により開催しました。